



# T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイローター』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

## W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2009年4月6日

No. 32

平成21年3月23日

卓話『中東の笛』

大崎電気工業株式会社 代表取締役会長

日本ハンドボール協会 会長

渡邊 佳英 様

一昨年12月、国際ハンドボール連盟（IHF）の理事会でオリンピック予選の再試合を決定しました。それからのひと月間、私もテレビに結構出る破目になったわけですが、その後はパタリと報道されなくなってしまいました。今日はその結末をお話しします。

発端は一昨年9月の豊田市での男子予選です。私どもハンドボール連盟は審判の問題では過去10年間泣かされていて、中立なIHF公認の審判の派遣を要請していましたが実現せず、韓国・クウェート戦ではヨルダンの、日本・クウェート戦ではイランのレフリーが笛を吹きました。結果は韓国も日本も負け。ハンドボールのルールは微妙で、押したら駄目なんですけど、押したのか押されたのかは審判の判断。韓国・クウェート戦のときは明らかにひどいジャッジで、3歩まではボールを持っていられるのに2歩でオーバーステップ取られたりしました。これを韓国のKBSが中継してたのですが、終わった直後から大ブーイング。韓国の世論が巻き起こりまして、KBSが韓国ハンドボール協会監修のDVDを作り、審判のここがおかしいという解説を付けてIHF加盟の168カ国とIOCの委員に送ったんです。それによると審判のミスは1試合で37カ所あった。それでIOCから批判が出てIHFも対処の必要に迫られ、12月18日の理事会になったわけです。カザフスタンで行われた女子予選でも大変に一方的な笛が吹かれたようですけども、会場はカメラ持込み禁止で映像証拠がない。でもIHFの判定は男女とも再試合でした。クウェートはIHF理事会の決議は不当だとして決議無効の訴えを国際スポーツ裁判所に提訴し、またアジアハンドボール連盟（AHF）は再試合を主催したり参加した国は処罰するという警告を出しました。韓国と日本は再試合をやるべきだということで2カ国だけで1月に代々木の体育館でやり、韓国が勝ちました。AHFは試合を主催した日本に千ドルの罰金を課し、私ど

もは上部団体であるIHFの決定に従っただけだと拒否しました。

国際スポーツ裁判所は昨年3月に判定を下しています。

玉石混交の判定で、IHF理事会の決定はクウェート、AHFの釈明を聞いていないから無効。その

一方で、男子の場合はビデオを見たらとんでもない試合だから、元々無効というものです。女子の場合は映像証拠がないので有効だという、よく分からない決定ですけども、クウェート男子の出場権は取消されて韓国になり、カザフスタンの出場権はそのままです。こういう形で再試合については一応終了したわけです。

あと千ドルの問題です。シェイク・アーマドはクウェートの王子様で、その父のシェイク・ファハドともども政治とスポーツをうまく使いながらアジアのオリンピックの主導権をアラブに持っていった実力者です。私の父がIHFのアジア代表理事だった頃から、双方、親子2代に亘って戦っているわけです。そういう中でアーマドが91年からアジアオリンピック委員会とAHFの会長を務めております。今、東京オリンピックの招致をやっておりますけれども、招致のためには中近東の票を取らなくちゃいけない。それで一番実力のあるアーマドに名誉博士号をあげちゃおうということで、昨年10月、日体大に招待しました。その時、武田会長が彼に、千ドルの罰金はもういい加減にしたらどうかと言ったら、もう古い話だから忘れたという返事でした。それで千ドルの問題はうやむやになり、中東の笛の騒動は解決したということでございます。

